

道博協ニュース 第137号

(2025年10月31日発行)

第63回北海道博物館大会を終えて

令和7(2025)年7月4・5日、北海道開拓の村および北海道博物館を会場に、第63回北海道博物館大会が開催されました。蒸し暑い中でしたが1日目114名、2日目67名(オンライン参加含む)の参加者を数え、大会テーマ「博物館教育再考—今、多様な主体に向けて—」のもとで、積極的な情報交流が図られました。

初日午後の開会式では荒川裕生北海道博物館協会新会長をはじめとする来賓挨拶のち、表彰式、特別報告が行われました。道教育庁文化財・博物館課西野拓裕係長による特別報告では、博物館法改正に伴う登録博物館の再登録手続きが北海道では滞り気味であることが示されました。移行期間の終了が迫る中、旧相当施設を含めた手続きを進める必要があります。

研究大会では、小川義和氏(立正大学教授・埼玉県立川の博物館館長)から「博物館の教育は、誰に、何のために」というタイトルで基調講演をいただき、博物館を取り巻く社会の変化に基づく博物館活動の「社会への再文脈化」という観点で、現代の博物館教育のあるべき姿を整理していただきました。続いて長崎歴史文化博物館の出口幹子教育普及リーダー、北海道立近代美術館村山美波学芸員、CISEネットワーク代表菊田融氏から個別報告があり、博物館での多様な教育プログラムの紹介、美術館展示と学校教育が連携した活動、博物館連携による教材キットの整備など、各館・団体の先進的な取り組みについての報告がありました。指定論者八重柏誠氏を交えた総合討論(コーディネーター:北海道開拓の村 館長 中島宏一氏)では、具体的な課題に対して、どのように

に考え、取り組むべきかという意見交換が行われ、各館での活動の参考になったと思われます。私としては国、県立博物館での取り組みと同等の内容を一人職場でどのように行えるかが課題ですが、出口氏の報告にあったように、教育普及部門を持つ博物館が市町の館の協力を得てプログラムを実施している事例から、特定の博物館に所属しない博物館教育の専門家グループが整備され、道内の様々な博物館を教育の場にすることで、各館の使命・役割を維持しつつ、社会から求められる博物館での教育を提供できるのではないか、という可能性を見出すことができました。

二日目には昨年から開始された道教委と道博協共催の職員研修会が開催されました。今年は道教育庁、北海道庁、国立文化財機構、北海道博物館の職員を講師に3件4題の講義を受けたのちに、3グループに分かれて参加者がそれぞれの研修内容を対象に協議・討議を行いました。私が加わった文化財防災をテーマとするグループでは、道、市町村、大学、私立など、設置者の違いによって被害発生時の役割が異なるという点が共有されるなど、有意義な学びが得られました。今後は、博物館側から行政という方向の研修も実施されることを期待しています。

大会での会員交流から生まれる各博物館活動の充実が北海道の社会教育・文化の発展につながります。釧路市で開催される来年度大会でも、今年以上の成果が得られる 것을期待しています。

[北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
植物園・博物館 准教授 加藤 克]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和7年度第一回研修会報告

道央地区博物館等連絡協議会では、6月5日(木)「野外彫刻・モニュメントのメンテナンス」をテーマに、札幌芸術の森アートホール並びに野外美術館

を会場として令和7年度の第一回研修会を行いました。

美術館に限らず、施設の敷地内や公園等公共空間に設置された野外彫刻・モニュメントが設置されており、そのメンテナンスの必要性には気付いていても、だれがどのように作業を進めて良いか分からぬといった事例も少なくありません。

今回は、各所で野外彫刻のメンテナンスに携わり、市民や学校と連携した実践経験を持つ、日本大学芸術学部田中修二教授、東海大学篠原聰准教授に講師を務めて頂きました。最初の1時間は講義の形を取り、田中教授からは野外彫刻・モニュメントのメンテナンスに関する歴史と方法を、その後、篠原准教授よりメンテナンスの機会を活用する「彫刻をさわる時間」の運営実例や、参加者への働きかけのポイントを紹介いただきました。

講義の後は、野外美術館に移動し、実際の野外彫刻を相手に健康診断を実施。土台部分の土の流出状況の確認や、制作年代によってボルトでの接合具合など、作業の安全にも関わる注意点の指摘や、作品の形状によりオリジナルの色が確認しやすい箇所、保護用のワックスの塗布方法など実務的な情報の紹介を頂きつつ、参加者が作品に触れながら鑑賞のポイントやメンテナンス方法の確認などを実施しまし

た。

なお、当研修会資料として提供された『屋外彫刻メンテナンスハンドブック』については当協議会ホームページへの掲載許可をいただき、ダウンロード可能です。是非ご活用ください。



研修会のようす

[北海道開拓の村 学芸員 細川 健裕]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

2025年度研修会報告

道南ブロック博物館施設等連絡協議会では6月26日にクアプラザピリカで「文化財防災」をテーマとした研修会を実施しました。いつ発生するかわからない災害が文化財にどのような被害をもたらすかをまずは知ろうということで、2018年の胆振東部地震で大きな被害を受けた厚真町の乾哲也氏・奈良智法氏に「北海道胆振東部地震の被災状況と防災の取組について」と題した講演いただきました。展示施設や収蔵庫での被災状況を中心に、地震被害対策の有効性や二次被害の様子、地震被害に弱い構造について解説をいただいたほか、地震被害後の取り組みとして、復旧作業の経過や理科教育などへの活用事例についても報告をいただきました。

研修の後半では、今金町・森町・七飯町の担当者がそれぞれの施設で実施している文化財防災の取り組み事例を持ち寄り、講師を交えた意見交換会を実施しました。今金町からは道南ブロック博物館施設等連絡協議会が運営している「南北海道の文化財」というwebサイトのデータを利用した文化財ハザードマップの作成について、森町と七飯町からはそれぞれの収蔵施設で実施している地震被害対策について報告がありました。これらの報告を通じ、文化財

ハザードマップ作成による文化財管理者への周知の重要性や、収蔵場所に少しでも地震被害対策をすることで地震被害を大きく低減できることなど、これから防災に向けた議論を深めることができました。

災害対策というと大きな取り組みが必要なようにも思えますが、少しの対策でも確実に効果があり日々の実践が重要であることを認識することができた、重要な研修会でした。



意見交換会のようす

[今金町教育委員会 学芸員 矢原 史希]

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和7年度日胆地区博物館等連絡協議会総会・研修会 開催報告

令和7年度日胆地区博物館等連絡協議会の総会・研修会が令和7年5月22日に新ひだか町アイヌ文化交流センターにて開催され、29名の会員が参加しました。

総会では初めに、令和6年度事業報告、令和6年度決算報告、令和6年度会計監査報告、会員の動静（加入、退会）状況の4件が事務局より報告されました。この内、会員の動静状況については、登別市の古趣 北乃博物館と日高町の北海道オサムシ展示館の2館が新たに加入しています。

次に、令和7年度事業計画案、令和7年度予算案、役員改選、30周年記念事業についての4件が議案として審議されました。事業計画案及び予算案、30周年記念事業については原案どおり承認され、役員改選については、会長に室蘭市の谷中聖治氏（新任）、副会長に平取町の長田佳宏氏（留任）と洞爺湖町の角田隆志氏（新任）が選出され、可決されました。

総会終了後には各館の新人紹介や今年度取り組む事業、近況等についての情報交換会が行われ、新人の方々にとっては地区ブロック内で初めての顔合わせとなりました。

同日に開催された研修会では、ひだか町アイヌ文化交流センターについて、斎藤大朋センター長及び施設スタッフによる解説を行いました。

同センターは、シャクシャイン記念館とアイヌ民俗資料館を改築し、新築した機能型生活センターと一体化した施設として建設したものです。参加者は、施設や展示資料を見学した後、新ひだか町静内地方で伝承されているアイヌ古式舞踊を、保存会の会員でもある施設スタッフの解説・指導を受けながら和やかに体験しました。



アイヌ古式舞踊体験の様子

[新ひだか町博物館 主事 田中 康平]

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

**令和7年度宗谷管内巡回展
「宗谷の昭和100年—戦争の時代から復興へ—」の開催について**

宗谷管内学芸職員連絡協議会（稚内市教委・礼文町教委・利尻町教委・利尻富士町教委・枝幸町教委）では、平成19年より管内巡回展を開催しています。巡回展では、宗谷管内の学芸員がテーマごとに分担で執筆し、学芸員が配置されている自治体を中心に、未配置の自治体においても希望に応じて巡回しています。昨年度は宗谷管内10自治体のうち、9つの自治体を巡回しています。

今年度は、太平洋戦争終戦から80年、そして「昭和100年」の節目の年にあたります。宗谷管内学芸職員連絡協議会では、「昭和100年」のあゆみのうち、我が国の近代史の大きな転機となった戦時中から戦後復興にかけての時期に焦点をあて、宗谷地方の人びとが体験した「戦争」とその後の暮らしの再生をテーマとした管内巡回展を6月より開催して

います。

主な展示内容として、以下のテーマでパネルを作成しました。

戦時下（昭和10年代）における地域と戦争との関わりをテーマごとにパネル解説

戦時下（昭和10年代）における地域と写真との関わりを示す写真資料を展示

戦後復興期（おおむね昭和20年代）の地域の暮らしをテーマごとにパネル解説

戦後復興期（おおむね昭和20年代）の地域の暮らしを示す写真資料を展示

戦時下・戦後復興期に関する実物資料を展示各館にて展示

戦後80年が経過し、戦争の記憶がしだいにうずれつつあるなか、宗谷地方の戦争の記録・体験を次の世代に伝え、復興に立ち上がる地域の人びとの姿を広く紹介することで、地域の成り立ちに対する関心を高めたいと考えております。

宗谷管内を訪れる際には是非、各館にご来館いただければ幸いです。

●令和7年度宗谷管内巡回展示順

- [1] 枝幸町 オホーツクミュージアムえさし
: 令和7年6月4日～6月29日(日)
- [2] 礼文町 礼文町郷土資料館
: 令和7年7月11日(金)～8月4日(月)
- [3] 利尻富士町
りしアートビジターセンター
(カルチャーセンター)
: 令和7年8月13日(水)～9月15日(月)
- [4] 利尻町 利尻町立博物館
: 令和7年8月1日(金)～9月30日(火)
- [5] 稚内市(3会場)
①稚内市北方記念館
: 令和7年7月28日(月)～8月24日(日)
②旧瀬戸邸
: 令和7年8月25日(月)～9月28日(日)
③稚内市樺太記念館
: 令和7年10月1日(月)

～令和8年3月30日(日)

- [6] 猿払村 猿払村役場
: 令和7年11月中旬～12月下旬(予定)



巡回展のようす

[稚内市教育委員会 文化財主幹 斎藤 譲一]

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

令和7年度北網圏北見文化センター 企画展 残したい情景、伝えたいまなざ しー金山平三・佐竹徳ー

当館では、科学館・博物館・美術館・プラネタリウムの機能を併せ持つ総合博物館として、北見市企画展実行委員会による企画展を開催しています。今年度は、7月26日から8月31日まで、公益財団法人日動美術財団が所蔵するコレクションの中から、近代日本の洋画家・金山平三と佐竹徳の作品を紹介する展覧会を開催しました。なお、この企画展はオホーツク管内博物館連絡協議会の研修会としても位置付けています。

会場には、奥入瀬から瀬戸内まで日本各地を旅して描かれた自然の情景を通じ、また、14歳差を超えて



ギャラリートークのようす



展覧室のようす

て互いに尊敬し、心を許す仲であった二人の交流にも注目、季節や土地に寄り添って制作された風景画約80点が並びました。また、関連イベントとして、学芸員によるギャラリートークや風景をテーマにしたジオラマ作りを実施しました。

利用者からは、本格的な風景画を鑑賞する貴重な機会を得たとの声が多く聞かれたほか、ギャラリートークにより両画家の品格と調和に満ちた作品をより深く知ることができたこと、ジオラマ作りによる「ものづくり」の楽しさを体験することができたとの感想をいただきました。実行委員会の目的でもある優れた文化芸術に触れ、振興の寄与に貢献できたものと思います。今後も利用者の幅広いニーズに応えられるよう多彩な展覧会やイベントを企画していくことを考えています。

[北網圏北見文化センター 科学・美術係長
多田 成寿]

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

**令和7年度総会の開催と釧路市立博物館
企画展「道東考古」について**

令和7年5月21日に釧路市立博物館において令和7年度道東3管内博物館施設等連絡協議会役員会・総会を開催しました。総会では令和6年度の事業・決算報告、および令和7年度の事業計画・予算協議を行い、原案通り承認されました。総会終了後は例年通り、参加者が順番に近況報告を行いました。なお、本総会をもって事務局（会長館）が根室市歴史と自然の資料館から釧路市立博物館に移りました（3年ごとに帶広百年記念館・根室・釧路で移動）。



企画展「道東考古」会場での展示解説（総会後）

終了後には希望者を対象に、釧路市立博物館企画展「道東考古—縄文の世界—」の展示解説を行いました。

本企画展は道東3管内加盟館園をはじめとする道東域（道東3管内・オホーツク管内）から資料を多数借用して開催し、講演会や体験講座でも3管内の方にご協力・ご登壇いただきました。市内ほか遠方より本企画展を目的とした来館者も多く、中には数時間滞在し、熱心に展示風景を撮影している来館者の姿もみられました。



企画展「道東考古」会場のようす

[釧路市立博物館 学芸員 加藤ゆき恵]

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

夏休みイベントに合わせた体験企画について

当館の夏休み特別企画「知ってる？古代魚展」の開催にあたり、体験企画として「化石発掘体験」を実施いたしましたのでその取組についてご紹介いたします。

昨今、全国的に恐竜や化石のイベントの情報を聞く機会が多く、当館においても「古代魚」をテーマとし、夏休み特別展を計画しておりましたが、展示においては見せることができても触るということができないことから、北海道博物館より触れる化石標本をお借りして化石に触れるコーナーを設置し、さらに期間限定で「化石発掘体験」（有料）を行いイベントの満足度を上げ、入館者の増員を目指しました。

結果としては前年比95.7%と及ばなかったものの、「化石堀体験」については初の試みであったた



イベント会場の展示の様子

め評価するには判断材料が少ないと感じています。

「見て、触って、体験する」という企画は特に子供たちにとって非常に良い経験となり思い出に残るのではないかでしょうか。

[新さっぽろサンピアザ水族館 館長 福田 利幸]

学芸職員部会 NEWS

コラムリレー

「博物館～資料のウラ側」連載中

よその館の展示を見て、この資料の裏面はどうなってるんだろう、と、ガラスに顔をつけて覗こうとしたことは、ないだろうか？

全道の学芸員が毎週交代でweb連載する、コラムリレー。第8シーズンは、そんな“資料のウラ側”がテーマ。4月から連載開始、8月末時点で26人の学芸員が執筆し、公開されている。(http://www.hk-curators.jp/archives/category/column-8)

化石だって土器だって、文書も写真も、博物館資料はすべて三次元空間に存在する立体。展示で見せたいオモテがあれば、必ずウラもある。撮影日や場所のメモ、火事の焦げ痕など、裏になったところにも情報は刻まれている——。資料の一面だけじゃなく実物をまるまる残す意義に気づいてほしい、という意図のテーマだ。

とはいって、この企画の“ウラ”的意図は、別にある。学芸員の書く力、わかりやすく伝える能力の向上だ。コラムリレーは、館や地域のPRだけではなく、自主トレでもあるのだ。

文章能力の向上のためには、提示された条件に合わせて書く努力も重要。コラムリレーでは、あえていくつも制限を設けている。文字数1500字以内、写真や図を5枚以内で入れる。そして、最も気を配ってほしいのは、読者が中学生だろうと、道外の人であろうと、理解できる文章・内容。

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

大人も楽しめる科学館を目指して

「科学館」と聞くと、子ども向けの施設と思われる方が多いのではないかだろうか。実際に小中学生の校外学習の場として利用されることが多く、例えば札幌市内の小学校においては、4年生で習う天文単元の学習の一環として当館を訪れる学校は8割を超える。多くの科学館にとって、主な来館者層は小中学生の子どもとその親世代だろう。一方で、ファミリー層以外の大人の来館者数が少ない点については、伸びしろがあると言えるかもしれない。

5月に実施した北海道青少年科学館連絡協議会館長会議では、少子化のため子どもの数自体が減少しており、このまま子どもだけをターゲットにしていると将来的に来館者数は減少していくとい

学芸員は、多くの場合、特定の分野の研究者でもある。さすがにみなさん、学術論文のような文章を書くのはお上手だ。しかし、一般向けにわかりやすく書く…となると、必ずしもそうでもないカチカチな文章も、決して少なくない。

文章なんて、慣れ。1本、頭を悩ませて書けば、その次に書くときは、もう少しマシな文章が書ける。昔から作文もレポートも苦手だった著者も、そうやって少しほとんど読める文章を書けるようになってきた（…と思う）。そんな気持ちが伝わってくれたのかどうかわからないが、今シーズンは若手のみなさんが多く参加してくれていて、うれしい。

多くの人が読んでくれる文を書いて、ガラスに顔をつけるお客様を、1人でも増やそう。いや、ガラスが脂で汚れて迷惑か。



資料のウラにも情報が…

[学芸職員部会事務局・いしかり砂丘の風資料館
学芸員 志賀 健司]

う危機感を持っている館が多かった。今後大人にも足を運んでもらえる施設にするためには、まずは科学館を「大人も楽しめる場所」と認識してもらうきっかけづくりが必要だろう。すでにいくつかの館では大人向けの事業を企画し、好評だったという。会議では、謎解きを取り入れたプラネタリウムの投影、藍染やレジンアクリセサリーなど大人向けの工作体験会、中学校の授業で習った実験を改めて体験できる科学教室などの事例が報告された。子ども向けの事業との違いとして、子どもには「現象の驚き」をきっかけに興味関心を持ってもらうように働きかけることが多いが、大人にはさらに一步踏み込んで「考えることの楽しさ」を伝えられるような企画をすることが大切ではないかという話があった。たしかにその現象が起きた理由を検証したり、日常生活に応用されている事例を紹介したりすることで、より学びが深まり満足度の高い事業になるとを考えられる。大人向けの事業につ

いてはこれから取り組んでいきたいという館が多く、課題として挙げられていた広報手段等も含め、各館の取り組みや成功事例については今後も共有していきたい。

今後も幅広い世代に楽しんでいただける事業を企画することで、家族でも大人同士でも楽しめる

科学館を目指していきたい。また、科学館・博物館相互のネットワークを活用して新たな取り組みに関する成功事例を共有し、お互いに有益な情報交換や研修を続けていきたい。

[札幌市青少年科学館 高橋 志織]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

ミュージアムのアクセシビリティ

令和7年3月6日、7日に北海道美術館学芸員研究協議会を開催し、1日目のテーマは、「ソフト面における美術館のアクセシビリティ」についてでした。稲庭彩和子氏（国立アートリサーチセンター主任研究員）による特別講話と会員館の事例報告から各館がアクセシビリティについて考える貴重な機会となりました。

2022年、国際博物館会議（ICOM）は「一般に公開された、誰もが利用できる包摂的な博物館は、多様性と持続可能性を促進する。」と定義し、2024年には、事業者による障害のある人への「合理的配慮の提供」が義務化されました。

「合理的配慮」とは何でしょうか。建物によって差はあっても、ハード面の配慮は、現在ほとんどの公共施設で対応しています。「合理的配慮」は、ソフト面での配慮です。配慮の必要な相手から何らかの助けを求める意思表明があった際に、施設にとって過度な負担になりすぎない（合理的）範囲で、制約をもたらしている障壁を取り除く配慮をさします。特別講話では、身体的に配慮の必要な方が美術館を楽しむために、休養スペースの確保や荷物の事前受けとりなどの対応を行った事例が紹介されました。病気や障害だけでなく、子どもや高齢者などさまざまな対象への配慮について、お互いの状況を確認して調整をはかり、合意できるポイントをさがすこと、コミュニケーションの重要性が強調されていました。

会員館からは障害のある方や子どもを対象とす

る事例報告がありました。当館の「ウィズ・キッズ'24」展では、学芸員と学校の先生との連携協力が子ども達のアクセシビリティ向上に結びついた事例が報告されました。展覧会企画のため、学芸員が事前に小学校の先生と綿密な打ち合わせを行って美術館の企画に生かし、また、先生は学校で美術館の展覧会を活用した図工の授業を実施しました。生徒が事前に先生の撮影した美術館の展示作品紹介や担当学芸員インタビューの動画を見て、自身の制作に生かし、同時に展覧会や作品鑑賞そのものへの関心を高めました。

アクセシビリティとは、地道な情報収集とコミュニケーションの継続によって向上し、「だれもが楽しめるミュージアム」の実現に近づいていけるのではないでしょうか。



「ウィズ・キッズ'24」展でのキッズツアーのようす

[北海道立近代美術館 学芸部長兼学芸統括官
佐藤 由美加]

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2025年10月～2026年3月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
10/4	子どもワークショップ「ヒツジの毛にふれてみよう②初めての草木染め
10/11	ちゃれんがワークショップ「DNA実験入門—あなたのお酒耐性は?—」
10/13	ミュージアムトーク「博物館資料を守るための工夫」
10/18	ミュージアムカレッジ「寛政年間の幕府蝦夷地調査と秦檍丸」
10/18～11/30	第25回企画テーマ展「新着資料・研究成果展」
10/25	子どもワークショップ「親子で探検!森のコレクションをつくろう」
11/1	自然観察会「落ち葉であそぼう!」
11/1	講演会「『長濱清蔵のアイヌ語』を刊行して」
11/8	企画テーマ展関連行事 ミュージアムカレッジ「北海道のリンゴ栽培の歴史」
11/23	ミュージアムトーク「むかしのあかり「提灯」とそれを作った職人の技術について」
11/30	ちゃれんがワークショップ「恐竜時代の岩石を使って、地質図をつくってみよう!」
12/6	ちゃれんがワークショップ「稻わらで「鍋敷き」を作ってみよう!」
2026/1/10	特別イベント「博物館のウラ側を見てみよう～林業編～（同日2回開催）」
1/25	ミュージアムカレッジ「女性のライフコースと裁縫」
1/31～3/22	第26回企画テーマ展「吉田初三郎が描いた北海道」
2/11	ミュージアムトーク「企画テーマ展見どころ解説」
2/15	企画テーマ展関連行事 ミュージアムカレッジ「鳥瞰図絵師・吉田初三郎と北海道」
2/23	ミュージアムトーク「企画テーマ展見どころ解説」
2/28	自然観察会「動物の足跡を追いかけよう!」
3/8	特別イベント「クマゲラー斎調査2026」
3/15	企画テーマ展関連行事 ミュージアムカレッジ 「吉田初三郎のまなざしを建築・まちなみからひも解く」
3/20	ミュージアムトーク「企画テーマ展見どころ解説」
1/24, 1/31, 2/7, 2/14, 2/21, 2/28, 3/7, 3/14	連続講座「はじめての古文書講座（全8回）」
12/13, 2026/1/17, 2/8, 3/1	連続講座「学び直しの易しい地学講座（全4回）」

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
11/1～2026/2/23	企画展「きたひろしまの縄文時代～のぞいてみよう、考古の世界～」
10/25	市民がまだ見ぬ原始の森へ ～特別天然記念物野幌原始林の神秘的な森を見に行こう～

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
10/3,4,11,12	円山ZOO ナイトツアー2025
10/4,5	自然とキノコ展
10/11,25,11/8, 12/13,27,2026/1/7,24, 2/14,28,3/14,20	チリモン観察会

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/2~2026/3/31	常設展「北海道の文学」
9/6~11/9	道立文学館開館30周年特別展「長谷川四郎とそのきょうだい」
9/27~11/9	常設展アーカイブ「函館の作家たち（後期）」
10/5,12/21,2026/3/1	わくわくこどもランド「絵本の読み聞かせ」ほか
10/9,11/13,12/11,2026/1/8,2/12,3/12	月例朗読会「北の響～名作を声にのせて」
10/12~10/13	中島公園ぶんがく縁日「同人誌などのフリーマーケット、講演会など」
10/26	文字・活字文化の日関連事業「講演会など」
11月上旬	ロビーコンサート
11/1	古典の日記念朗読会
11/2	わくわくこどもランド「親子で楽しむ人形劇」
11/16	映像作品鑑賞「斜陽のおもかげ」
11/22~2026/1/18	道立文学館開館30周年特別展「シリーズ刊行20年おばけのマール本がだいすき！」
11/19~2026/1/18	常設展アーカイブ「村上春樹と北海道」
12/7	わくわくこどもランド「手作り教室：ツリーをつくろう！」
12/14	わくわくこどもランド「手作り教室：すごろくをつくろう！」
12/21	わくわくこどもランド「クリスマス・スペシャル：絵本の読み聞かせほか」
2026/1/11	わくわくこどもランド「手作り教室：ウインターブックをつくろう！」
2026/1/31~3/22	道立文学館開館30周年特別展「文学館コレクションの輝き」
2026/2/15	映像作品鑑賞「こんにちわ、20才」

北海道立近代美術館 (011-644-6881)

期間	タイトル
10/1~11/24	【特別展】トーベとムーミン展～とっておきのものを探しに～
12/13~2026/2/15	【特別展】イワタルリ展
12/13~2026/4/12	【近美コレクション】おはなし美術/（同時開催）カラー・オブ・グラス/この1点を見てほしい。池田良二《アントニ・タピエス氏に捧げる Varanasi》/青木美歌《未生命的遊槽》

札幌オリンピックミュージアム (011-630-2000)

期間	タイトル
10/18	大倉山・宮の森ジャンプ競技場往復ノルディックウォーキング

10/12・13	ビックラ！！スポフェス in 大倉山 2025
2026/1/17～4月中旬	ミラノ・コルティナオリンピック特別展示会

空知

岩見沢郷土科学館 (0126-23-7170)

期間	タイトル
10/11	天体教室「夏から秋の星座と、土星の観察」
11/3～2026/1/4	パネル展「辻村直四郎ガラス乾板写真展」
2025/11/3	文化の日科学館無料開放
2025/11/3	パネル展「辻村直四郎ガラス乾板写真展」関連講演会
2025/11/15	科学教室「天体望遠鏡を操作してみよう」
2025/11/22	科学教室「燃焼と爆発」
2026/3/3	天体教室「皆既月食の観察」
2026年3月上旬	第21回科学館まつり
2026年3月	企画展「令和7年度新収蔵品展」
2026/3/17～3/22	天体教室「冬の星座と木星・すばるの観察」

後志

おたる水族館 (0134-33-1400)

期間	タイトル
7/19～10/15 9:00～17:00(入館は16:30まで) 10/16～11/24 9:00～16:00(入館は15:30まで)	特別展 うんこ！ 後期：うんこを知ればいきものがわかる
10/26～11/24	令和7年 おたる水族館 幼児・児童動物画コンクール 入選作品展
12/13～2026/2/23	おたる水族館冬期営業

渡島

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
10/5	中空土偶（レプリカ）をだっこしてみよう
10/11, 11/8	縄文土器づくり・野焼き体験
11/15	黒曜石で石鏃づくり
11/29～2026/3/31	縄文文化特別研究成果発表展示
1/10	土偶の凧づくり
2/7	チョコレートで石器づくり

3/20～3/31	縄文世界遺産クイズラリー
-----------	--------------

市立函館博物館 (0138-23-5480)

期間	タイトル
8/30～10/26	ロビー展「池谷寅一展～画家の愛した函館～」
～10/26	企画展「知られざるオホーツク海先史文化紀行」
10/4	展示解説セミナー「博物館まるごと解説」
10/12	アイヌの女性用小刀「メノコマキリ」をつくろう（会場 北方民族資料館）
11/3～	ロビー展「函館博物館史」
11/3～2026/6月末	収蔵資料展「酒は飲んでも飲まれるな～懐かしのお酒ディスプレイ～」
11/8	秋の自然観察会
11/9	酒は飲んでも飲まれるな！ お酒にまつわるお話し会
11/22	千島アイヌのコイリング技法でコースターをつくろう（会場：北方民族資料館）
12/7	デジタルでみる！ 博物館資料鑑賞会（会場：函館市中央図書館）
2026/1/9	冬休み自由研究「ボンドでステンドグラス工作「
3/1	学芸員こぼれ話①「函館觀光とアイヌ文化」
3/8	学芸員こぼれ話②「縄文文化あれこれ」
3/15	学芸員こぼれ話③「幕末函館の外国事情」
3/22	学芸員こぼれ話④「サムライ絵師 楊洲周延と「江戸風俗十二ヵ月」について
通年	おもてなし講座「展示解説」（要事前予約）
通年	おもてなし講座「バックヤードツアー」（要事前予約）
通年	収蔵資料展「はこだての歩み」
通年	収蔵資料展「箱館戦争」
～10/31	おもてなし講座「見せます！お宝公開」（要事前予約）
～10/31	おもてなし講座「明治の博物館見学」（要事前予約）

檜山**ピリカ旧石器文化館 (0137-83-2477)**

期間	タイトル
4/29～11/30	2025年度企画展「ひと・馬・いまかね」
10/12	石器づくり講座（石ナイフ）

胆振**室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)**

期間	タイトル
8/2～10/5	室蘭市平和都市宣言啓発事業 戦後80年特別展「戦争と平和展」
10/19	とんてん館寺子屋教室「焼きいもと木製コースターづくり」体験学習会
11/23	とんてん館寺子屋教室「干支凧づくり」体験学習会

12/7	とんてん館寺子屋教室「しめ縄づくり」体験学習会
12/14	とんてん館寺子屋教室「石臼餅つき」体験学習会

日高

情報なし

上川

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
10/19	古文書教室②
11/2	科学工作体験（電池を使わない手作りラジオに挑戦しよう！）
11/24	古文書教室③
11/30	創作体験（内容はまだ未定）
12/6	昔の手仕事体験（内容はまだ未定）
2025/1/12	サイエンスフェスティバル
2/7～3/8	桃の節句展

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)

期間	タイトル
9/12～2026/1/12	彫刻家の素描展 2025 中原悌二郎賞受賞作家による
9/27	こども彫刻教室「テラコッタで動物を作ろう」
10/4～11/19	旭川彫刻フェスタの記録展（ステーションギャラリー）
10/5	みんなの彫刻教室「キー ホルダー制作で簡単鋳造体験」
11/1・2	旭川彫刻フェスタ 2025 ワークショップ 「見えない形と見える形 粘土の中に広がる手探りの世界」
11/8	旭川彫刻フェスタ 2025 「彫刻ねんど広場」
11/16	こども工作ワークショップ「はらぺこビックリ！なんちゃってお弁当」
11/23	第44回中原悌二郎賞贈呈式・記念講演会

宗谷

情報なし

オホーツク

北海道立オホーツク流氷科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
10/4～10/19	第11回木の香りこがし絵展
10/19	北海道くじら講座第4回「海棲哺乳類の漂着とその対処」

10/19	ビーチコーミング
11月	ポコポコ点字教室
11/1～12/24	西紋写真部作品展
1月	ヘタでもいいお絵かき会
1/4～2/8	コムケ写真展
1/10	冬のプランクトン観察クルーズ
1/10～1/12	冬のギザまつり
2月	北方圏国際シンポジウム協賛写真展
3月	蜃気楼観察クルーズ
3/21	春休み科学イベント
12月～2026/3	毎月2回「今月のプラネタリウム」

北網圏北見文化センター (0157-23-6700)

期間	タイトル
10/4	佐治晴夫博士 特別講演（宇宙）
10/4	佐治順子博士 特別講演（音楽療法）
11/2	青少年のための「科学の祭典」
11/15	プラネタリウム特別投影「続・千の風になって～笑顔さわやか元気！～」
11/22～11/24	熟睡プラ寝たリウム 2025
11/29・11/30	「えんとつ町のペペル」朗読劇 チックタック～約束の時計台～
12/13～2026/1/18	道内巡回展「神話と星座と虫の名と」
12/13～2026/1/18	特別展「宙（そら）の風景写真展～みんなの撮影した一枚～」
12/20・12/21	プラネタリウム特別投影「クリスマスファンタジー2025」
12/20	クリスマスナイトプラネタリウム 2025
12/21	発明クラブわくわくクリスマス
2026/1/10	チャレンジたこ作り
1/11	冬休みも文化センターで遊ぼう
1/11	冬休みわくわくプラネタリウム
1/12	鳥の羽根をしらべよう！
1/14～6/28	令和7年度 第3期常設展「ひとのかたち」（仮）
2/22	ミュージアム広場 冬まつり
3/15～3/22	令和7年度 美術館講座合同作品展

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
～10/5	ロビー展「フィルムで振り返る復刻上映」
10/5	無料開館「博物館開館記念行事」
10/18	講演会「スマート生きるショウジョウバエのふしき」
10/24・10/25	プラ工房「ラッププレスレット」
11/14・11/15	プラ工房「虫よけオニヤンマ」
11/15～2026/1/18	企画展「おひろめコレクション展」

12/13・12/14	プチ工房「サンタとトナカイのキャンドル」
2026/1/9・1/10	プチ工房「ヒノキのマイ箸」
1/17	体験会「アイヌ刺繡を体験しよう（初級編）」
1/18	体験会「アイヌ刺繡を体験しよう（上級編）」
1/31	無料開館「雪の遊び広場」
2/7～3/1	企画展「冬季作品展」
2/7～3/3	ロビー展「ひなまつりとひな人形」
2/20・2/21	プチ工房「ちりめん細工」
3/21～10/25	特別展「生き物たちの地球」
3/27・3/28	プチ工房「やってみよう！草木染め」

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

期間	タイトル
10/18	はくぶつかんクラブ「まが玉づくり」
11/1～12/14	ロビー展「皮革文化財と科学技術」
11/1～12/14	ロビー展「絵と詩 少数民族ショルのこころ」
11/1	講座「絵と詩 少数民族ショルのこころを覗いてみよう」
11/8	はくぶつかんクラブ「皮でつくるマルチケース」
11/22	上映会「北方民族博物館シアター冬」
12/7	講座「皮革文化財と科学技」
12/13	はくぶつかんクラブ「皮とフェルトでつくるカレンダー」
2026/1/4～1/18	ロビー展「オホーツクシリーズ⑯ 北の状景から」
1/10	講習会「はじめての歩くスキーツアー」
1/17	はくぶつかんクラブ「ビーズ織りでつくるルームプレート」
1/31	講座「北方民族博物館の収蔵資料」
1/31～4/5	企画展「開館35周年記念収蔵資料展」
2/21	はくぶつかんクラブ「北の動物ししゅうのティッシュケース」
3/7	上映会「北方民族博物館シアター春」
3/8	講座「北海道の骨角器」
3/13	講習会「サミのひも織り」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

期間	タイトル
開催中～2026/3/29	ミニ展示「昭和100年」
9/27～10/26	特別展「アートとの対話 加藤祐子 Rを愛して」
10/5	博物館講座「砂金掘り体験」
10/19	子ども考古学体験「土器作り体験」
11/16	子ども考古学体験「石器作り体験」
11/22～12/14	特別展「北海道写真協会紋別支部写真展」
12/7	博物館講座「ガラス玉を作ろう！」
1/17～2/15	企画展「博物館収蔵資料展」

1/18	子ども考古学体験「火おこし体験」
2/28～3/22	特別展「第21回博物館サークル活動作品展」
3/8	博物館講座「街頭紙芝居とあめ細工」

北見市ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
10/5	トコロチャシ跡遺跡群公開特別企画「古代遺跡で聴くトソコリの調べ」

十勝**帯広百年記念館 (0155-24-5352)**

期間	タイトル
9/6～10/13	特別企画展「子どもの詩『サイロ』のなかの虫たち」
9/6～10/13	特別企画展「ヘルマンヘッセ昆虫展～少年の日の思い出～」
10/4～10/19	ロビー展「アイヌ文化ロビー展」
10/11	博物館講座「ぶらり帯広」
10/11	文化財の一般公開「とてっぽ号に乗れる！」
10/18	博物館講座「本別空襲を伝えるために」
11/22	博物館講座「アイヌ語から知るカムイとアイヌ文化1」
12/20	博物館講座「大地が語る十勝の自然史」
1/10～2/1	ロビー展「動画で旅する十勝の歴史6」
1/16～2/1	第44回郷土美術展
1/24	博物館講座「近年の市内遺跡調査報告」
2/7～3/3	ロビー展「ひな人形展」
2/28	博物館講座「百年記念館のコレクション形成の経過とこれから」
3/14	博物館講座「学芸員のしごと 学芸活動報告会」

ひがし大雪自然館 (01564-4-2323)

期間	タイトル
10月～3月	冬鳥展
10/4	体験型行事「十勝三股の自然に触れる集い」
10/13	自然観察会「十勝石（黒曜石）の観察会（十勝石の日）」
11/3	体験型行事「自然館まつり」
10/13	自然観察会「十勝石（黒曜石）の観察会（十勝石の日）」
2026/2/8	自然観察会「十勝三股で冬の動物の足跡・フィールドサインを観察しよう」
2/22	自然観察会「糠平のオジロワシとオオワシ観察会 (オジロワシ・オオワシ越冬個体数等調査)」
11月～2026/3月 各第3日曜日	体験型行事「バックヤードツアーア」

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
10/3～11/30	2025年度コレクション展Ⅱ「日勝をフィルターに通したら」
10/7～10/14	第31回馬の絵作品展
11/15	令和7年度アート・キッズ・クラブ(第4回)【小学生対象】
12/3～2026/3/29	"特別企画展「神田日勝記念美術館×小川原脩記念美術館所蔵作品交換展
12/7	第23回日勝祭(神田日勝生誕祭)
1月上旬(未定)	令和7年度アート・キッズ・クラブ(第5回)【小学生対象】

釧路**釧路市立博物館 (0154-41-5809)**

期間	タイトル
10/4～12/14	企画展「メーリアンの立体昆虫図譜」
10/13	企画展講演会「昆虫はなぜ描かれるのか? (仮)」
10/19, 11/16	春採湖畔探鳥会
10/25	アマモウォッチ報告会
11/3	昆虫画入門
11月	釧根インフラ映画祭
11月下旬～12月中旬	釧路市指定文化財・天然記念物50周年記念講演会
12/20～2026/2/15	企画展・私の博物館「伊藤貴光写真展」(仮)
12/28	おそなえもちをつくろう
2/14or21	冬のいきもの観察会
2/21～2026/5/10(仮)	企画展「植物と人の関わり」(仮)
3月	企画展講演会「釧路地方の人々の植物利用(仮)」

釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
10/11～10/13	企画展「遊びんピック2025「ハロット王国をすぐえ!～異世界に召喚されちゃった～」
11/3	青少年のための科学の祭典 釧路大会「サイエンス屋台村」
12/13・12/14	ワークショップ「クリスマス・スペシャル」
2026/1/11	企画展「ジオ・フェスティバル in Kushiro」
2026/2/14・2/15	企画展「とり+かえっこ」
2/28～3/1	ワークショップ「ひなまつり・スペシャル」
3/25～4/7	企画展「春休みイベント2026」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
7/19～10/13	さかなクンのギョ苦楽展～さかなクンの世界とギョギョギョ水族館～
7/19～10/13	ももちやんと見つけ! 北のおさかな界隈

10/4	「さかなクンのギョ苦楽展」こどもギャラリー・ツアー
11/1	「アイヌの美 彩りと輝き」展トーク・イベント
11/1	「アイヌの美 彩りと輝き」展アーティスト・トーク
11/1～12/14	アイヌの美 彩りと輝き
11/1～12/14	"国立美術館 コレクション・プラス
11/2	「アイヌの美 彩りと輝き」展アーティスト・トーク
11/3	オルシペスウォップ（アイヌのお話アニメ）上映会
11/4	大人の家庭科&お気軽アート教室（アイヌ文様刺繡ワークショップ）
11/8	「国立美術館コレクション・プラス」展プレミアム・トーク
11/15・16	アイヌ語カルタであそぼう！～トウレッポンとイランカラブテ！
11/15	「アイヌの美 彩りと輝き」展キュレーター・トーク
11/16	「アイヌの美 彩りと輝き」展アーティスト・トーク
11/23	「国立美術館コレクション・プラス」展美術講座
11/29	アートシネマ館「映画 深夜食堂」
11/30	「アイヌの美 彩りと輝き」展アーティスト・トーク
12/13	「アイヌの美 彩りと輝き」展アーティスト・トーク
12/13	アートシネマ館「宇宙探索編集部」
2026/1/6～2/28	あの日、この場所で コレクションにみる地域と美術
1/6～1/12	冬のキッズ・アトリエ
1/17	アートシネマ館「ひとよ」
2/28	アートシネマ館「梅切らぬバカ」

根室

情報なし

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願ひいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 （普）0287000 北海道博物館協会会長 荒川裕生】
【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■2026 年度の北海道博物館大会について

第 64 回北海道博物館大会は、2026 年秋頃に釧路市立博物館で開催予定です。

■今後の道博協ニュースの発行について

昨年末に皆様にお願いしました「北海道博物館協会 文書の送付方法及び電子化に関するアンケート」では多くの会員の皆様からご回答をいただきました。ご協力、誠にありがとうございました。第 136 号以降は、物価高騰対策および資源有効活用のため、「紙媒体は不要」とご回答いただいた会員の皆様には発送を控えさせていただきたく思います（必要と回答された方、アンケートへ未回答の方にはこれまでどおり紙媒体のニュースもお届けいたします）。なお、pdf 版の道博協ニュースは今後も引き続き当協会 web サイトへ掲載を続けます。今後も電子版の道博協ニュースを是非ご活用下さい。

（事務局一同）

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <https://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第137号
発行日 2025年10月31日
発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局
〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内
電話：011-898-0456
メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com